



誰もが目を覆う

強烈な当たり!!
でも…

あきらめない

強い気持ちで

ホームを死守!!



①



②

①選手宣誓を行う西有家少年のキャプテン、木下一平君 ②市の花ひまわりを手に国旗掲揚を見守る選手たち



③

壮観!!開会式
真っ青な空がそろそろと赤く染まる7月30日午後4時、有家総合運動公園で全日本小学生ソフトボール大会の開会式が始まりました。
有家中学校吹奏楽部の演奏(写真③)に合わせ、全48チームが入場。最後に入場した有家少年、西有家少年がスタンド前を通過すると、会場は、ひととき大きな歓声に包まれました。

活躍する地元チーム
今回、南島原市からは2チームが出場。西有家少年クラブはこの大会に向け結成された、西有家小、龍石小、長野小の選手がメインの合同チーム。5月1日に行われた予選会で、加津佐Jr.ホークスなどを破り優勝。大会出場の切符を手に入れました。
同じく、有家少年ソフトボールクラブは、県協会の推薦枠で出場が決定。なお、有家少年も新切小、蒲河小、堂崎小の合同チームです。
両チームとも、目標の初戦を突破。有家少年は、3回戦を勝ち抜きベスト8入りの快挙を果たしました。
また、雲仙市の小浜少年ソフトボールが準優勝を果たすなど、地元勢の活躍が目立つ大会となりました。



④



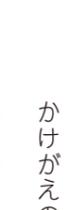
⑤



⑥



⑦



⑧

④守備の要、松崎凌真(りょうま)君。⑤投手の松尾陵平(りょうへい)君。彼の素晴らしいピッチングが、快進撃の原動力でした。⑥監督が「地味だがその存在は攻めの要」と絶賛する2番内田流風(るか)君のバント。⑦毎日の練習風景。⑧ピンチに駆け寄る監督。監督の言葉に、選手たちは励まされ、自分のプレーを取り戻すことができました。

僕たちの 熱い夏

―特集―



2010年 南島原市で最も熱い夏がやってきました。
―全日本小学生ソフトボール大会―
今月は、「僕たちの熱い夏」と題して大会の様態を特集します。



3回戦タイブレーカー。勝又大海君の痛烈な右中間3塁打



二塁手苑田啓汰君の必死のプレー



2回戦。同点のホームインに笑顔

おめでとう!!そして感動をありがとう。
有家少年S.B.C
ソフトボールクラブ
全国ベスト8

有家少年ソフトボールクラブ 勝利の“キセキ”

1回戦は、 千葉県小金北SBCに2対0で完封勝利。2回戦は、愛媛金子スポーツ少年団と対戦し、初回に1点を許したものの、その後は、一塁ベースを踏ませない安定した守りで、ベスト16入りを決めました。(2対1)

3回戦は、 福岡永犬丸レッドライオンズと対戦しました。1点先行しての6回表、フォアボールなどで2点を奪われませんが、その裏、セーフティバントで出塁した2番内田流風君が、エラーなどのすきをつけてホームイン。同点に追いつきます。その後2対2のまま7回を終了。タイブレーカーに突入しました。試合は8回、2点を許した有家の裏の攻撃は、キャプテンの勝又大海君から。力強く叩いた初球(上の写真)。打球は、右中間を深々と破り、三塁打1点を返します。その後、相手の守備の乱れから1点を奪います。同点で迎えた6番荒木太我君への2球目、林田憲明監督が勝負を仕掛けます。荒木君の打球が一塁に転がった時には、三塁ランナーの苑田啓汰君がホームに飛び込み、ゲームセット。ヒットエンドランというもとも有家少年らしい勝ち方で、ベスト8を決めました。(5対4)

準々決勝は、 山口県の養治ファルコンズと対戦。この日2試合目の疲れから、序盤のすきをつかれ、初回と2回に合計8点を奪われます。その後は、1安打無得点で抑えますが、ファルコンズの好投の前に得点できず、8対1で準決勝進出の夢は破れました。

大丈夫。まだ振り出した。

―有家少年の強さ―
有家少年の林田憲明監督が、特に印象深かったと語る3回戦。中でも監督は、鮮やかな逆転劇ではなく、6回松尾陵平投手の乱調と復調を挙げます。
「ベンチから落ち着くよう大声で言うのですが、全然届かない。松尾もギリギリだったんでしょね。タイムをとった監督は、ゆっくりとマウンドへ向かいます。」「また同点、振り出した。もっと落ち着いていい。お前は一人じゃない。もっとバックを頼れ」
意外なほど穏やかな監督の言葉に、本来のプレーを取り戻した選手たち。失点を2点でくいとめ、その後の逆転劇へとつながりました。

有家少年の安定した守備。それは一人ひとりが不安なときも、お互いが支え合い、頼りあえる人間関係が作りだしているのかもしれません。

失敗を恐れない勇氣

―西有家少年が得たもの―
西有家少年の池田信男監督は「試合の選手たちは、本当に粘り強かった」と振り返ります。「さすがに大量点を覚悟した」という2回戦の3回裏、2点取られなお、ノーアウト満塁のシーン。「堅くなってエラーでもおかしくないピンチ。そこでゲッツーがとれた。しびれましたね」強い気持ちと失敗を恐れない勇氣。それもまた、選手たちが大会を通して手に入れた、かけがえない宝物なのです。